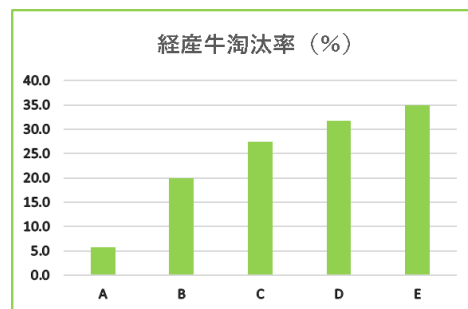


あしよろ・ハードサポート通信

新型コロナウイルスの影響により、経験したことのないようなレベルで行動の制限がなされています。こんな時だからこそ、今出来ることを一生懸命取り組み、前を向いて皆で乗り切っていきましょう。さて、北海道の春告魚といえば抱卵したニシンですね。数の子は子宝や子孫繁栄を祈る縁起物と言われています。「数の子」に習い、後継牛の「数」を確保していきましょう。

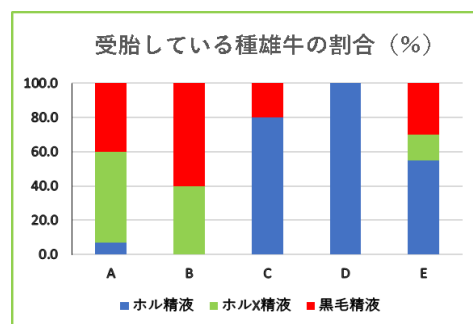
◆ 経産牛淘汰率

経産牛淘汰率とは、保有している経産牛に対して除籍となった経産牛の割合です。右記のグラフでは、5戸の酪農家さんでの1年間の経産牛淘汰率を示しています。個々においてバラつきが大きいことがわかりますが、疾病や事故など必要な更新以外の淘汰は少ないほど良いです。巡回していて「今年は、初妊牛を〇頭売らなければいけない」「どの月齢の育成牛を間引きしようか」「どの経産牛を出そうか」など聞こえてくるなら、経産牛の更新が順調に行えていることが想像できます。牛群構成をこのような流れにもっていくためには入口（後継牛）を増やし、出口（淘汰牛）を減らすことが大切です。



◆ 入口を増やす

後継牛をより多く確保するには、雌雄判別精液を活用することで大きな成果が見込めます。先ほどのグラフと同じ農場で、現在受胎している牛の種雄牛割合を見ました。雌雄判別精液を積極的に活用しているところでは、後継牛となるホルスタイン雌牛の出生頭数が計算しやすく、個体販売価格の高い肉用種の授精を行えていることがわかります。牛群の中でも比較的受胎率が高い2産目までの搾乳牛や、体格が十分出来ている未経産牛への積極的な活用をお勧めします。また、近年では右記の表のように通常精液との受胎率の差は小さくなってきています。



項目	通常精液		雌雄判別精液	
	授精頭数	受胎率	授精頭数	受胎率
試験①	22,850	58%	1,025	46%
試験②	18,526	54%	895	48%
試験③	33,050	57%	5,679	51%

期間：2014年～2016年 日本家畜貿易ホームページより

◆ 出口を減らす

後継牛を多く確保できたとしても、淘汰する牛が多ければ経産牛の頭数は維持できません。右記の農場では経産牛80頭を飼養しており、1年間に20頭が淘汰されました。淘汰率は25%と決して高くはないですが、分娩後の低カルシウム血症やケトーシスが発端で死亡する牛が多い傾向でした。要因を掘り下げていくと、グラスサイレージの品質が悪く、乾乳牛が十分な乾物摂取量を確保できていなかったことがわかりました。ここでは、乾牧草をグラスサイレージの代替えとして給与することで解決に至りました。他の疾病でも、同じ理由で経産牛が淘汰されることを繰り返さないよう、傾向を認識し対策を行うことが大切です。

牛種	追加	除										箱					
		乳器	乳器	乳器	乳器	乳器	乳器	乳器	乳器	乳器	乳器	乳器	乳器	乳器	乳器		
未経産	32	25															
1産	17	13															
2産																	
3産以上	2	2															
除籍日までの年齢			5-2	7-2						7-5				7-1			



乾乳牛の飼槽にエサがないのも NG!

◆ 適切な育成牛の保有頭数

経産牛の淘汰率が下がってくると、必要な育成牛の保有頭数も減ってきます。経産牛の事故や流産などの想定外のリスクに備え、育成牛を多く在庫しておくことは大切です。しかし、経産牛頭数に対して育成牛の過剰な保有は、費用や労力の面で大きな負担となります。

経産牛50頭規模	
経産牛淘汰率	育成牛必要頭数
15%	17頭
20%	22頭
25%	28頭
30%	33頭
35%	39頭

初産分娩月齢24カ月の場合

◆ 前向きな更新を行いましょ

安定した生乳生産を行い続けるには牛群の入口を増やすこと、出口を減らすことが大切です。これを両立させることで牛群から出ていく理由が「淘汰」から「更新」へ変わっていきます。乳質、能力、扱いやすさなどで積極的な更新を行える体制に入れば、搾乳効率や作業効率は更に高まっていきます。(船久保 雄二)



・3月末で予定しておりました「魁！銀河塾」の町内視察は新型コロナウイルスの影響を考慮し、延期とさせていただきます。状況をみながら、再度ご連絡いたします。